



愛郷無限

土屋館
どや
だて 通信

発行者：大曲・花火通り商店街
文責：辻

お問い合わせ：080-1265-7035
tuck-t@akita-tsujiya.jp

2014年07月19日号 NO.483

写真提供：大山市

Subject：訓書滋身 【なぜローカル経済から日本は甦るのか】

久々に開眼の思いのする書籍に出会いました。

◆PHP書籍932

【なぜローカル経済から日本は甦るのか～GとLの経済成長戦略～】

富山和彦著 ISBN：978-4-569-81941-9 780円（税別）

著者はボストンコンサルティンググループを皮切りに、産業再生機構設立時にはCOOに就任し多くの企業を再建を指導。その後も名だたる大企業、地方の中堅企業の再建・再生を果たした人です。現在は経営共創基盤（IGPI）の代表を務めながら、各社の社外取締役・監査役として指導をしつつ、政府の様々な研究員も努めている強者です。

特筆すべきは、学者としての経済論やコンサルティングではなく、実際に企業の中に入って経営の再建をしてきたということと、特に地方（ローカル）の中堅企業再生に携わってきたこと。みちのりフォールディングス（福島交通グループ・茨城交通グループ・岩手県北グループ・関東自動車グループ・会津バスグループという北関東・東北を束ねる公共交通グループ）を自社の子会社化として経営を立て直しています。

規模・社員数の大きさで大企業・中小零細企業に分ける従来の考え方ではなく、その会社の特性によってグローバル企業とローカル企業に区別し、各々に対することなる戦略・施策を採り入れていかなければならないと。この本ではグローバル・ローカル各々への処方箋を提言しています。私たちの大曲は正にローカルの典型的例です。田舎におけるローカル企業の良い面・悪い面を熟知した上での内容とベースになっているデータに唸りました。私たちのように田舎でサービス業・製造業、公的サービスに関わる人は絶対に読んでおくべき必衰の書だと思います。特に、青年部や青年会議所、商店街の後継店主などの若手経営者にこそ読んでもらいたい本です。なぜなら、この街は生き残らねばならないから。

地方企業の集約（穏やかなる退出）と仕組み・制度の転換の必要性を説くだけでなく、地方のこれからの組成は【コンパクトシティ化】と【駅前商店街の復活】にあると喝破しています。鉄道の駅とバスターミナルの周囲に大半の生活機能を集約する。この度の駅前再開発で、バスターミナル・中核病院は郊外へ移転せず駅前に残りました。保育施設や健康施設などの公的インフラも来年には完成します。そこが利便的な生活の場、文化発信・共有の場、居住の場になることが次の絶対必要なステップです。それはハードだけで、ソフトだけではなし得ません。両方が必要となります。

そして、そのようなエリアを持ち得ているかどうかによって、中核都市になるべく限界集落からの穏やかなる退出と集約を個人に薦められるかが決まります。それが則ち地域が生き残れるかの分岐点に直結すると思います。